

Vol. 30 No. 3,
2013. DEC



秋田県作業療法士会

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jp>
会長 高橋 敏弘
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・水原 寛
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483 E-mail a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号
TEL/FAX 018-837-0552 E-mail has80970@snow.odn.ne.jp
印刷 川嶋印刷株式会社

巻頭言 「作業は人を健康にする」 「ひとは作業をすることで元気になれる」 ～介護保険部からの報告～

介護老人保健施設 あまさぎ園 堀井美和

「作業は人を健康にする」「ひとは作業をすることで元気になれる」と聞いて「生活行為向上マネジメント」がすぐに関連付けされましたか？

近年、日本作業療法士会において「生活行為向上マネジメント」の推進活動に重きが置かれ、全国各地で研修会などが積極的に開催されている状況にあります。

今年度の全国研修会も「作業は人を健康にする～心身を支える技術～」というテーマで秋田でも開催されました。

秋田県では昨年の平成 24 年 10 月 20 日、21 日に第 1 回目の「生活行為向上マネジメント」研修会を開催しました。参加は 30 数名でした。講師に村井千賀先生（石川県立高松病院）をお迎えし、グループでの演習を交えながら基本的な考え方からマネジメントツールの使用方法を学びました。村井先生は平成 20 年度から日本作業療法士会での老人保健増進事業に携わり、「生活行為向上マネジメント」を開発された第一人者のお一人です。第 2 回目は 2 月 16 日の極寒の日の開催でした。講師は同じく村井先生をお迎えしました。第 2 回目は第 1 回目に参加された会員がそれぞれ事例を持ち寄ってのグループ討議形式で行っております。

今年度に入ってから第 3 回目の研修会を 10 月 5 日に開催しております。今年度も幸いなことに村井先生を講師に迎えて開催することができました。徐々に「生活行為向上マネジメント」が普及しつつあるようで、今回は 60 名程の参加がありました。昨年度に比べると介護保険領域以外の会員の参加も多かったです。是非、現場に持ち帰って 1 例でも活用してみることができればよいと思います。

今年度の介護保険部の事業として第 4 回目の研修も 2 月頃に村井先生の講義を予定しております。詳細が決まり次第、会員の皆様にお知らせ致しますので是非ご参加下さい。

研修会にまつわる余談ではありますが、懇親会に参加されたことはありますか？懇親会は“初めまして”

の会員の集まりであることが多いので苦手な場合もあるでしょうし、遠方から参加される場合は時間の問題もあるかもしれませんが、毎回参加者が10名弱で開催されている状況です。ただ、時間が限られている研修では聞くことのできなかつた講義以外の講師の先生の話しを聞く有意義な会であり、ざっくばらんに質問も受けてもらえます。研修時間とは違った見方、違った距離感での交流の中で得られるものは大きいと思います。作業療法士の最近の動向などの情報、裏事情（?!）も知る機会にもなります。余談の余談ではありますが、県外から講師をお迎えした際は、できるだけ秋田の良さをアピールできる会場を考えます。“おもてなし”です。そこでは、県外から見る秋田県を知ることができます。是非、次回の研修会では研修会後の懇親会への参加もお待ちしております。

印象記「第52回作業療法全国研修会を終えて」

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 高橋 敏弘

平成25年9月7日、8日に第52回作業療法全国研修会秋田会場が無事終了しました。このような全国規模の大会は平成6年の第28回日本作業療法学会以来、実に19年ぶりでした。開催にあたり実行委員、運営委員をはじめ座長をお願いした先生方等たくさんの会員の皆様及び病院、施設にご協力いただきありがとうございました。

当日は急病人が出るなど過去の研修会ではほとんどなかった出来事がありましたが、運営スタッフの迅速かつ的確な対応で大きな混乱なく研修会を運営することができました。

全体の参加者数は277名と予定よりやや少なめでしたが、北は北海道、南は沖縄までまさに全国各地の作業療法士に参加していただきました。研修会の内容は作業療法の領域を幅広くとらえた最新のトピックスから協会が力を入れている生活行為マネジメントなど非常に多岐に渡るプログラムで参加された方々は満足できる企画だったと思います。

公開講座で秋田県士会が企画した秋田大学工学資源学部情報工学科教授水戸部一孝先生の講演も、歩行環境シミュレータ「わたりジョーズ君」の実演を交えてとてもわかりやすく、秋田から作業療法士が取り組む新たな領域を発信できたのではないかと思います。

懇親会も素晴らしい内容で盛り上がりました。特に秋田の地酒コーナーは県外の参加者に大好評で「すべての種類を飲み比べてみたかった」「本当に秋田のお酒はおいしい」とたくさんのお褒めの言葉をいただきました。

次の大きな学会は2017年の東北作業療法学会になると思います。これからも会員の皆様のご協力をお願いいたします。



印象記「平成 25 年度発達部門研修会に参加して ーボバース概念による治療について考えたことー」

中通リハビリテーション病院 岡本 真由

平成 25 年 5 月 25 日、26 日の二日間、中通リハビリテーション病院会議室を会場に開催された"一般社団法人秋田県作業療法士会平成 25 年発達部門研修会 脳性まひ児者の姿勢コントロールと上肢、手の治療"に参加しました。

大阪にあるボバース記念病院に勤務され、日本ボバース講習会講師会議 成人部門基礎講習会インストラクター、小児部門作業療法専任講師である鈴木三央先生を講師にお招きし、2 日間にわたって発達領域におけるボバース概念に基づいた治療について勉強することができました。私自身は現在臨床で発達領域のお子さんを担当している訳ではなく、実際にその分野で働かれている先輩作業療法士の先生方からすると、生々しさに欠ける内容となるかと思いますが、今回参加するに至った経緯と、参加しての所感を述べさせていただきます。

私とボバースの出会い(?)は 20 年程前に遡ります。当時、大阪の豊中というところに住んでいた私は、妹の療育園通いに付き添う(連れて行かれる)ことが多く、妹が“訓練”を受けている間、その様子を眺めたり、他の子どもたちと遊んだりする時間を過ごしていました。治療台に背臥位で寝かされ、親子で汗を流しながら行う“訓練”風景と、子どもさんとセラピストが、カラフルなボールやおもちゃを使って楽しげに動き回っている、これも“訓練”の様子を見学し、幼いながらも“訓練”にも色々あるのだなあと感じたことを憶えています。難しいことは何もわからず、出会いというほど大きなものではありませんが、いわば“本場のボバース”に期せずして触れ合っていた私は、“ボバースって楽しそうだな”という子どもの頃のイメージを持ちつつ、偶然にもセラピストとなり、ボバースを勉強する機会を求めていました。

今回の発達部門研修会では、鈴木先生から近年のボバース概念における姿勢制御の考え方を中心に、発達分野における各論を取り混ぜた講義と、実際に CP のお子さん・ご家族に協力して頂いての治療デモンストレーション、姿勢制御に関する実技や、実際に治療で使用した実技についていくつか提示していただきました。

デモンストレーションでは、書字や靴下履き、歩行といった具体的な課題を通して、お子さんの持っている機能・潜在性が発揮されていく様子を見ていくことができました。覚醒や感覚、情動など様々なシステムを場面に応じて援助することによって、姿勢制御の戦略が変化していき、変化した姿勢戦略の中で生み出す運動・作業が目に見えて変わっていくさまが印象的でした。実技についても、臥位での骨盤・下肢の評価、治療と、座位や立ち上がりに関する提示で、下肢や体幹機能が上肢機能に大きく影響していること、姿勢制御を理解するには、全身の関係性を細かく見ていく必要があることを、改めて実感することができました。触れ方や、何を捉えればいいのかといったことについても、その都度ご指導いただき、基本をしっかり丁寧に教えていただけたように思います。

鈴木先生の講義の中で、目標設定の話題からだったと思うのですが、“best (最善) を目指すと、お子さんも家族もセラピストも、みんながお互いに疲れてしまうから、better (より良いものを) でも良いと

思っている”というお話がありました。「今、一生懸命にクライアントがやっていることや、そのやり方を否定せずに、自分自身の力量を評価しながら、その人にあった身体の使い方を提案していくことが大事である」とのことでした。これを聞いて、私としては肩の力をほんの少し抜いても良いと言われたように感じ、心に残る言葉となりました。

研修会全体を通して、鈴木先生が教えて下さったことは脳性まひ児や発達障害領域に限った事ではなく、中枢神経系疾患の治療を考える上でも必要な知識・スキルであったように思います。

セラピストになる前は、只々ボバースとは楽しい“訓練”といったイメージしかありませんでした。しかし臨床家として触れてみると、個別性を考慮した臨床推論の難しさや、技術の低さといった壁にぶちあたり、一朝一夕で身に付くものではないということをようやく理解できるようになってきたところ です。

とりとめなく綴ってしまいましたが、今回鈴木先生が仰っていた、“betterを目指す”ということを中心に据えて、様々な考えに触れながら、今後一層クライアントとも自分とも向き合い続けていきたいと思 います。このような自己表現の機会を与えて頂き、ありがとうございました。真面目に締めくくりたい と思います。

印象記「第52回作業療法全国研修会に参加して －国民に認められる職種を目指す－」

御野場病院 工藤真美

平成25年9月7、8日に渡り、「作業は人を健康にする」をテーマに秋田県で全国研修会が開催されました。私自身「全国」と呼ばれる研修会に参加すること自体が初めてだったので、どれだけの人数が来るのだろうと気持ちが高揚し当日を迎えました。実際には「全国」の割に会場内は空席が目立ち、正直寂しい気持ちもありましたが、会長の中村春基先生や公演して下さった先生方のご講義はそれぞれに内容が厚く、発する言葉に熱意が籠っており、一、作業療法士として刺激を与えられました。これぞ「全国」と呼ばれるに相応しい研修会であったと勝手ながら今でも感じております。

協会指定講座では国民に還元するために、①作業療法の今後の在り方、②生活行為向上マネジメントを活用し、ご本人にとって本当に大切に重要な「やりたい」と思う作業を再獲得するためのプラン設定ツールの提案、③地域の中で作業療法の活躍がさらに期待されていることが主に語られておりました。

また、中村先生のお話中には海外の作業療法は少ない患者様(2~4人)を受け持ちリハビリに当たっているという、今の日本では考えられないような作業療法の活躍や、スウェーデンやイギリスでは国民が作業療法の役割を認知している等の興味深い話もありました。先日参加した「生活行為向上マネジメント」の研修でも村井千賀先生が、訪問した国のスーパーに当たり前のように自助具が陳列している、気軽に住民が作業療法士に生活の改善点を尋ねに来る等、日本との作業療法の認知度に差がありすぎると話していたため、改めて日本の作業療法は距離があると思われま す。日本では果たして国民の何%がこの職業を認知しているでしょうか。現在は制度により作業療法が保険適応で受けられリハビリを提供

することが出来ていますが、実際適応にならない他国もある中で、日本の作業療法は無くなってしまっているのではないかと危機感を時々持ちます。

2025年は後期高齢者が爆発的に増加し、医療・介護が一層求められる節目の年になると危惧されています。それまでに国民のすべてが「作業をすることで健康になる」と知ることができるでしょうか。そして、作業療法士の存在を認めてもらうことができるでしょうか。この目的を達成するために、領域や各病院のスタイルは異なっても、私たち作業療法士一人一人が危機感を持ち、地域の患者様一人一人の本意と生活に向き合い、生活行為の向上をサポートする、そして成果を国、国民へ還元し存在をアピールしなければならないと強く感じさせられた研修会になりました。

公開講座でも歩行環境シュミレーターを用いた水戸部先生の研究やその他先生方の興味深い公演で顔が綻んだり、引き締まったり等忙しく聴講させて頂きました。新たに学んだことや感じたこと等書きたいことも多くありますが、今回は大変残念ながら割愛させて頂きます。来年はWFOTが横浜で開催され、世界規模での作業療法の実態に触れる貴重な機会となります。学会への参加に向けて、私も久々に英語の参考書を開こうと思います。

今回の運営に当たり実行委員の皆様、発表された諸先生方、ありがとうございました。

書評

「オカマだけどOLやっています。完全版」

著者：熊町 みね子
 出版：株式会社 文藝文秋
 315頁 価格：690円

介護老人保健施設 西風苑 伊藤恵美子

これは、性同一性障害の男性が性転換手術をする前に女性の名前でOLをしていたときの話や男性として生活していたときのことをまとめた話です。もともとはブログに書いていた話のようです。

この本の著者は、自分を性同一性障害だということから差別されてたくないということから「オカマ」と自分のことを書いていました。確かに、テレビ等では性同一性障害というにつらいもの、大変な病気というイメージを持つようなものであるように感じます。著者は、男である自分に違和感を抱きながら徐々に女性の服を着たりメイクをしたりと女性になって行く過程がありました。自分にとって楽なほうに進んだ結果、女性のほうが自分に合っており、楽だという方向になったのだらうと思います。

楽観的に書かれていますが、その中での葛藤がなかったかということや悩み等私では想像もつかない出来事があったのではないだろうかと想像してしまいます。同じ性同一性障害の読者はどう思っただらうかと考えてしまうのは、私が医療の勉強をしてきたからでしょうか…こうやって自分の障害のことも隠さず話し、楽観的にかけるということは、一番偏見を持っているのではないかとと思うところでもありますが…

オカマ(元男性)の持つ女性のイメージやOLのイメージと実際の体験談も書かれており、客観的に物事を捉えることが苦手なほうの私には参考になるなと感じました。さまざまな友達の話もあり、自分の周

りに著明のような方がいたら楽しいだろうなと思う反面、自分だったらどう接していくのだろうかということも考えてみました。たくさんの人とのつながりや経験は今後の自分の発展にも繋がるだろうなとなんとなく考え、これから仕事をしながら生きていく上で一つ一つの出会いや出来事をさらに大切にしていこうと考える機会となった本だったなと感じています。

今回、書評のお話をいただいて、普段は本を読むことの少ない私が何を読むか…から始まり、題名だけで「読めそうだ」と思って手に入れた本でした。一読者として楽しく読みながら、途中から一作業療法士の視点も混ざってきたりと複雑な心境でもあったなと感じています。

まとまりのない、乱雑な文章ではありますが、最後まで読んでいただきありがとうございました。

シリーズ「作業療法と生活考」NO. 56

腕のつけ根はどこ？

秋田大学医学部保健学科 金城 正治

学生に戻って少し解剖学、運動学を復習してみましょう。

皆さんは、腕(上肢)の付け根はどこにあると思いますか？ 多くの方が肩関節（特に肩甲上腕関節）を指すことが多いです。肩の動きは、この肩関節で起こっていると理解しています。この理解で動作をすると肩を痛めたり、肩こりを起こしたりすることにつながります。特に野球やテニスなどでは、肩を壊す結果になると思います。

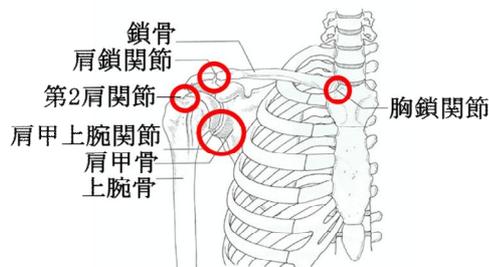
腕が体幹とつながっている関節は、胸鎖関節になります。よってこの関節が腕（上肢）のつけ根になります。澤口や野見山らは、肩の動きでは、この関節を意識して動かすことが重要だと指摘しております。バンザイの時や上肢のリーチ動作でも、自分で体験してみると動く範囲や距離が違ってきます。

また、肩関節の動きで重要なのは、肩甲骨の動きになります。肩甲骨は肋骨と結合はしておらず、肋骨の

上をすべるように動いています。この肩甲骨は肩鎖関節で鎖骨にもつながっています。よって、腕がよく動くのは、図のように胸骨と上腕骨の間には、鎖骨と肩甲骨の2つ骨、胸鎖関節と肩鎖関節と肩甲上腕関節を使っているからです。この3つの関節が一つでも制限されると、上肢の動きは制限を受けることになります。

馬、豚、犬には鎖骨はありません。鎖骨があると肩甲骨の動きが制限されますので早く走ることはできなくなります。さるは人同様に鎖骨があります。鎖骨には三角筋、僧帽筋、大胸筋、胸鎖乳突筋が附着しておりますので、鎖骨が筋肉の基点として働き、木にぶらさがったり、移動したりすることができます。

OTの臨床で肩関節のROM訓練をしている事も多くあります。この時に鎖骨や肩甲骨も意識して動かしているでしょうか？ 片麻痺では肩の痛みを引き起こすことにつながります。また、ケースや家族に肩



ROMを指導する時に、これらの関節のことも教えているでしょうか。鎖骨と肩甲骨の動きも重要で、上肢の動きの観察や日常生活においても重要なチェックポイントになります。

では、下肢のつけ根はどこなるのでしょうか？ 考えてみてください。

参考文献

- ・手相 <http://ja.wikipedia.org/> 2013/11/5 アクセス
- ・解剖図 <http://kotoseikeigeka.life.cocacn.jp/> より引用
- ・澤口祐二：アウェアネス介助論
- ・野見山文宏：感じてわかるセラピストのための解剖生

職場紹介

ケアセンターきらら きららアーバンパレス

きららアーバンパレス 小玉早希子

みなさん、こんにちは。きららアーバンパレスに勤務している小玉です。今回は、当施設について紹介させていただきます。

きららアーバンパレスは平成22年12月に総合福祉医療ステーションとしてグランドオープンしました。場所は、秋田駅からバスで10分ほどで、秋田市大町の竿燈大通りに面したところに位置しています。9階建てのビルで、もともとホテルだった建物を改装した造りのため、大ホールにはシャンデリアが飾ってあるなど、今も建物の所々にその名残があります。事業所としては、小規模多機能型居宅介護、訪問介護、短期入所生活介護、サービス付き高齢者向け住宅、居宅介護支援事業、福祉用具、訪問マッサージ、訪問看護ステーションがあります。ロゴで併記されていますケアセンターきららは秋田市太平にある系列施設です。

当施設で機能訓練に力を入れたしたのは、オープンから半年ほど経った、平成23年6月でした。もともとは介護職員が機能訓練の責任者を担っており、主に体操や歩行訓練を行っていました。現在はリハビリ専門職が入職したことで、作業療法士4名体制(うち非常勤2名)でやっております。リハビリの対象となる方は、「小規模多機能型居宅介護」「短期入所生活介護」「サービス付き高齢者向け住宅」の3つの事業所の利用者様です。それぞれ、小規模多機能型居宅介護は3階にあり、定員は25名。短期入所生活介護は4～7階で、定員は78名。サービス付き高齢者向け住宅は8～9階にあり、定員は30名です。

今までリハビリの提供はほとんどが個別だったのですが、対象となる利用者様の増加でそれが難しくなってきたことと、



スタッフも増えたことで、最近では集団でのレクリエーションや作業活動を始めました。

今年の7月15日には訪問看護ステーションもオープンしました。秋田市内だけでなく、潟上市や協和町まで足をのばし、少しずつですが、利用者が増えている状態です。

併設されている保育園と学童保育は、2つともリハ室と同じ2階にあるため、子供たちの楽しそうな声や、時には子供たちを震え上がらせる先生の叱咤がリハ室まで届いてきます。利用者と子供たちの交流会も定期的に行っており、一緒に風船バレーをしたり、ハロウィンには飴を配ったりしました。子供たちと触れ合っているときの利用者様はとても良い表情をされており、皆さん楽しみにされているようです。

当施設のリハビリテーションはまだ歴史が浅く、試行錯誤の毎日ですが、今後も利用者様のために頑張っていきたいと思っております。簡単ではございますが、以上で紹介とさせていただきます。お読みいただきありがとうございます。



<かづの元気フェスタ活動報告>

9月15日に鹿角市役所周辺を会場とした「かづの元気フェスタ」が開催されましたので、その活動報告いたします。

かづの元気フェスタは、活力のある明るい地域社会と住みよい福祉のまちづくりを目指して毎年行われています。会場内では、それぞれ、「催し物広場」「ちびっこ広場」「体験広場」「食の広場」「暮らしの応援広場」「人・もの交流広場」「健康広場」の7つのブースに分かれて開催され、私たちは「健康広場」の作業療法紹介として出展させていただきました。

かづの元気フェスタ来場者は子どもから高齢者まで幅広い年齢の方が来場していました。活動内容としては、秋田県内作業療法士所属施設のポスター紹介、日本作業療法士協会配布のビデオ・ポスターによる住宅改修・福祉用具、病院・施設でのリハビリ紹介、また、作業療法体験として、革細工でのキーホルダー作りを来場者に体験していただきました。革細工体験では、親子での来場者が多くみられ、子どもが最初に作業を行うのですが、子どもだけでは難しいところもあり、親の助けを借りながら作品を完成させ、革細工体験を楽しんでいました。



今回、秋田大学の高橋恵一先生を始め、大湯リハビリ温泉病院、秋田労災病院、東台病院、かづの厚生病院、大館市立病院の先生方にご協力していただきました。私は当日のみの参加でしたが、前日にも多くの先生方が会場準備を行ってくれたことで、無事にかづの元気フェスタを終えることができました。

ビデオ・ポスターでの作業療法紹介では“作業療法”を一般の来場者に理解してもらえるように、口頭での説明も加えながら行いました。会場には障がいを持たれた方とその家族も多く参加されていましたので、実際に自助具や福祉用具を見て、触ってもらうなどの内容が増えることで、より参加型の作業療法体験が来場者の理解を深めるのではないかと感じました。また、今後も作業療法を一般の方々に理解してもらう活動が県内で広がってくれば良いなと思いました。以上、簡単ですが活動報告とさせていただきます。

会員異動情報

	氏名	旧施設	新施設
退会	米田 幸二	メディカルハウス ゆう	福島県
退会	千葉 富貴子	地方独立行政法人 秋田県立病院機構 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター	宮城県士会へ
異動	田村 妙子	ケアタウンたかのす	自宅
異動	村井 順	障がい福祉サポートセンター聖和	デイサービス り・あくど
異動	村井 幸子	稲庭クリニック	デイサービス り・あくど
異動	安田 朋華	今村病院	秋田緑ヶ丘病院
異動	伊藤 睦子	秋田緑ヶ丘病院	デイ・リハスポット 西部ワズライフ
異動	佐々木 規恵	介護老人保健施設 たらちね	きららアーバンパレス
異動	若林 加奈	御野場病院	稲庭クリニック
入会	柴田 宇経		山本組合総合病院

編集後記

今年は、秋田で全国研修会が開催され、また2020年の夏季オリンピックが日本に決まったりと様々な出来事がありました。私個人としても、人生で最大の出来事がありまして…(汗) 多くの方々へ多大なご迷惑と人のありがたさを改めて実感いたしました。

また、この季節体調不良やインフルエンザが流行しますので、会員の皆様も体に気を付けて、良い新年を迎えてください。

ちなみにですが、インフルエンザの予防接種はいつ受けますか?…今でしょ!!! (笑)

編集担当 (yu-min)

広報部から

・会員異動の際は、お早めにお知らせください

県士会ニュース「きりたんぼ」では会員の異動情報(新規入会・退会含む)を取り扱っております。正確な情報をお届けできるように、広報部一同、これからも頑張っていきますので、異動の際はお早めにお知らせください。連絡先は事務局メールアドレス has80970@snw.odn.ne.jp です。ご協力よろしくお願ひ致します。

・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して、県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その想いが秋田の作業療法を発展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報お待ちしております。宛先はこちら a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp

創業120周年の福祉機器と

リハビリテーション機器の総合メーカー

酒井医療株式会社

仙台営業所

〒984-0032 宮城県仙台市宮若林区荒井字遠藤 47-1

TEL 022-390-6840 FAX 022-390-6842